

(註1)

1.はじめに 乳幼児が空間内のテクスチャを識別できる時期は、既に実験により、1才6ヶ月頃であることが判明した。その際、空間の方向性による影響を除くために、実験室のまわりを連れてまわったが、果してそれでその方向性が消されているか否か疑問であった。ここでは、それを再度チェックしてみたいと思う。

2.実験の概要 前実験結果^(註1)より、1才6ヶ月～2才未満、18人を対象とした。装置は、前実験と同様、2m四方で、内部は無彩色、同一の表面あらさ(約2000 μ)をもつ2つの空間である。実験方法は、向かいあって配置した2つの室空間内に器を置き、一方のみボールを入れ、外見上は同一に見えるようにした。夫々の室に連れて行き、ボールの有無を確認させ、前実験と同様に室のまわりを一周させ、左右が逆になる位置に連れてきて、さらにその場で2度回転させて、ボールのあった方の空間をたずねた。

3.結果および考察 実験室における配置の左右以外については、2空間の条件が全く同じであるから、実験室の方向性による記憶が消えておればボールのありかかわからないはずである。1人につき3回実験したが、1才6ヶ月～1才9ヶ月未満は正解者なし、1才9ヶ月～2才未満は正解者33%であった。この結果から空間の方向性が明確につかめるのは2才以前ではないことが証明された。従って前実験のテクスチャの異なる空間を識別できたということについて、方向性による判断が介入しているのではないかという懸念は除かれた。同様に空間の形識別の実験^(註2)に關しても識別できるのは2才0ヶ月であることから、実験室の配置による方向性の影響はないということが証明された。

註1)北浦、中野、浅野；空間のテクスチャ識別，1971.5 建築学会近畿支部発表

註2)北浦；幼児の空間要求に関する研究，1969.8 建築学会大会発表